

兵庫県立大学の活動報告

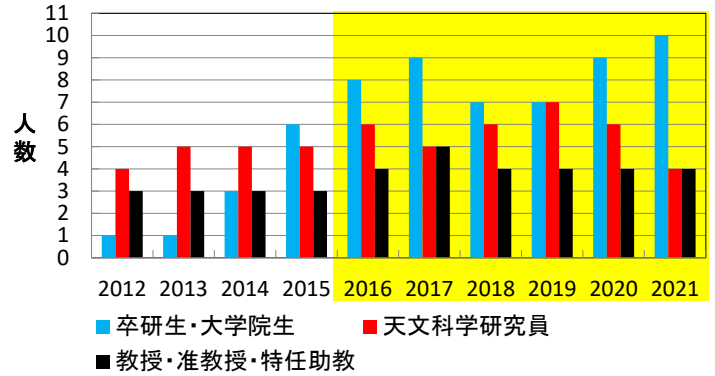


兵庫県立大学 自然・環境科学研究所
天文科学センター 伊藤洋一

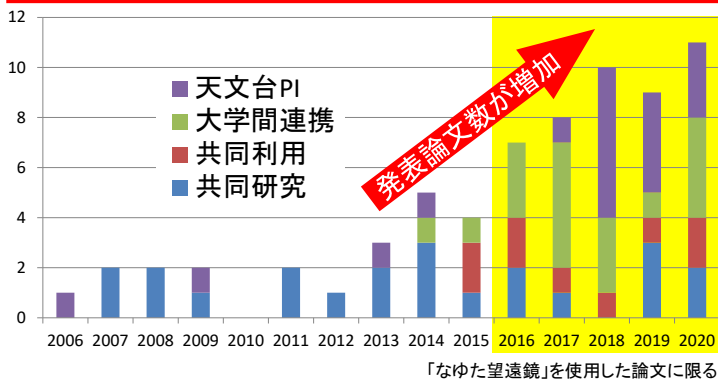


人員

- 兵庫県立大学理学部の学生が増えてきた。
- 各種外部資金の期限が迫り、研究員は減少。



発表論文数



共同利用拠点の活動

「なゆた望遠鏡」を用いて共同利用拠点を形成する

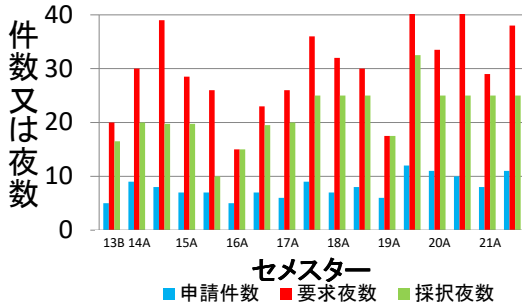
拠点の目標

- プロポーザル制に基づく共同利用観測により、独創的な研究成果を上げる
- 研究観測や装置開発を通じ、全国の大学における大学生・大学院学生の教育に貢献する

文部科学省による拠点の認定は今年度で終了

共同利用観測

- プロポーザル : 年間2回公募、半年で25夜
- 装置 : MALLS, NIC, WFGS2等
- 審査 : 外部委員を含めた審査委員会



2020年度の大学間連携観測

観測夜数 (3/31まで) ※有効なデータが取得できなかった日も含む

天体 / 課題 (PI)	MALLS	NIC	WFGS2
MAXI J1820 (安達、村田)		1	
EK Dra (行方)	4		
金星 (高木)			2
Super Eddington AGNs (Schramm)		14	
changing look AGNs (Schramm)	4		
Starlink衛星 (堀内)		2	
計	8	17	2

合計 (正味) 28夜, 47時間

2021年度の大学間連携観測

観測夜数 (11/19まで) ※有効なデータが取得できなかった日も含む

天体 / 課題 (PI)	MALLS	NIC	WFGS2
SN 2021zny (川端)		8	
Starlink衛星 (堀内)		2	
計	0	10	0

合計 (正味) 10夜, 8.5時間

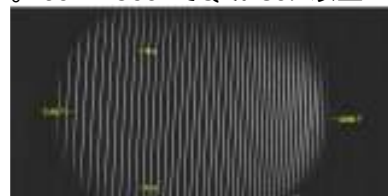
この一年間で行ったこと

1. zoomを用いたリモート観測の体制の整備

西はりま天文台の研究者が望遠鏡と観測装置を操作
観測者が遠隔で望遠鏡と観測装置を操作

2. 可視光分光器MALLSの新CCDカメラの開発

e2v社 261-84チップ。2k x 4k。400nm-900nmでQEが80%以上



エッセル高分散分光スペクトルの比較

(旧) FLI 2k x 2k

(新) e2v 2k x 4k レンズにケラれている

Stars and Galaxies

- 2018年12月に査読誌を創刊
- 年一回発行
- 西はりま天文台ホームページとJ-STAGEで公開。
- 日本語(アブストラクトと図表のキャプションは英語)または英語
- 掲載料無料、閲覧無料

- 兵庫県立大学: 8本
- 国立天文台、京都大学: 2本
- 茨城大学、東京大学、法政大学、放送大学、高知高専: 各1本

- 今年も数本の論文が集まった。

今後 行いたいこと

- 来年度以降も共同利用観測は継続する予定
- ユーザーズミーティングも継続したい
- リモート観測の充実

- 高精度の偏光装置を開発